


ゆりかご 2025-3-1

表だより

4期(1~3月)のねらい

- ・表現活動を通じて心を育てよう
 - ・卒園・進級を期待しよう
- 

今月の園だよりも私事で大変恐縮ですが、
今から30年以上前に名寄市立名寄短期大学
(現名寄市立大学)教授の、故小出まみ氏と共
著で、保育実践を出版したことがあります。集団の
中で子どもたちが成長していくゆりかごの保育の
様子をまとめたものです。古い園だより同様、

これも読み返すと顔が赤くなるほど恥ずかしいのですが、その「あとがき」に書いた文章の一部を紹介します。

音もなく降る雪を見ながら、ふと思った。暗闇の中では見えにくいですが、電灯の光に照らされた雪はキラキラ輝いていた。子どもたちもきらめいている。そのきらめきは見えにくいかもしれないが、子どものきらめきを見る。心の目をもった保母になりたい。同じ年齢、月齢でも子どもは一人ひとりその輝きは違う。子どもってステキだ。保母って楽しい(30年前、保育士は保母とよばれていました)。

30年経た今でもその思いは変わりません。子どもは皆、きらめく個性を
もっています。そのきらめきに気づかずにいるのはもったいない。

この春、16名の子どもたちが卒園します。あなただけのきらめく個性を、大切にしてくれる大人に出会うことを願っています。卒園おめでとう!

